

令和8年度 年間学習指導計画案

|       |                |     |      |                               |                |
|-------|----------------|-----|------|-------------------------------|----------------|
| 科目    | 論理国語           | 単位数 | 3単位  | 学年・学科・コース                     | 2年・普通科・スポーツコース |
| 使用教科書 | 新編 論理国語(大修館書店) |     | 副教材等 | 核心漢字(尚文出版)<br>LT 現代文 基本(浜島書店) |                |

1. 学習の到達目標と評価の観点

|         |   |
|---------|---|
| 学習の到達目標 | <p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</li> <li>・論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</li> <li>・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</li> </ul> |
|---------|---|

| 評価の観点                        |  |  |
|------------------------------|--|--|
| a. 知識・技能                     | b. 思考・判断・表現  | c. 主体的に学習に取り組む態度   |
| 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けることができる。 | 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 | 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養うことができる。 |

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

| 月 | 学習項目   | 学習内容(ねらい)  | 評価の観点 |   |   | 評価規準  | 評価方法                       |
|---|--|--|-------|---|---|---|----------------------------|
|   |  |  | a     | b | c |   |                            |
| 4 | 【論理と出会う】<br>「知の登山、知の水路」<br>(汐見稔幸)<br><br>フォーカス     | 多様な課題と向き合いながら、自分らしく生きるために、「知」の力、「論理」の力の大切さについて考える。         | ○     |   |   | 論証したり、学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増やし、文章の中で使うことを通して、語感を磨き、語彙を豊かにしている。                                | 定期考査<br>課題<br>小テスト<br>授業態度 |
|   |  |  |       | ○ |   | 文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えている。   |                            |
|   |  |  |       |   | ○ | 進んで論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、学習課題に沿って、資料との関係を把握して内容や構成を的確に捉え、自分の考えを論述したり討論したりしようとしている。 |                            |
| 5 | 【具体と抽象】<br>「突然変異と進化の関係」<br>(長沼 毅)                  | 具体と抽象の関係を理解し、自由自在につかひこなせるようになる。                            | ○     |   |   | 主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。  |                            |
|   |  |  |       | ○ |   | 多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にしている。   |                            |
|   |  |  |       |   | ○ | 進んで主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深め、学習の見直しをもって、多面的・多角的な視点から自分の考えを見直し、考察した内容をまとめようとしている。           |                            |
| 6 | 【具体と抽象】<br>「記号的メディアと物理的メディア」<br>(伊藤垂紗)<br><br>問題演習 | さまざまな情報を整理し、抽象化することで、考えをまとめる。<br><br>これまでに身につけた語彙力や読解力をはかる | ○     |   |   | 主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。  |                            |
|   |  |  |       | ○ |   | 多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にしている。   |                            |
|   |  |  |       |   | ○ | 進んで主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深め、学習の見直しをもって、多面的・多角的な視点から自分の考えを見直し、考察した内容をまとめようとしている。           |                            |
| 7 | 【対比をとらえる】<br>「米の種類と食文化」                            | 対比をすることで物事の特徴がはっきりし、伝えたいことが明確に                             | ○     |   |   | 個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。   | 定期考査<br>課題                 |

|          |   |  |   |   |   |   |              |
|----------|---|--|---|---|---|---|--------------|
|          | (稲垣栄洋)  | なるような効果的な用方を学ぶ。  |   | ○ |   | 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。                                 | 小テスト<br>授業態度 |
|          |   |  |   |   | ○ | 筆者の意見を踏まえた事例について粘り強く考察し適切に説明しようとしている。   |              |
| 8        | 【論理的に書く】  | 自分の意見を文章にまとめ、読み手を説得するために、根拠を明確にし、主張を支える構成にするなどの小論文の基本的な書き方を学ぶ。             | ○ |   |   | 実用的な文章などの種類や特徴、構成や展開の仕方などについて理解を深めている。  |              |
|          |   |  |   |   | ○ | 読み手の同意が得られるよう、適切な根拠を効果的に用いるなど、文章の展開や構成を工夫している。  |              |
|          |   |  |   |   | ○ | 小論文を書く活動を通じて、根拠を明確にしながらか論じることが粘り強く理解し、自らの文章を改善しようとしている。   |              |
| 9        | 【対比をとらえる】<br>「対話の精神」<br>(平田オリザ)   | 対比をすることで物事の特徴がはっきりし、伝えたいことが明確になるような効果的な用方を学ぶ。                              | ○ |   |   | 個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。   |              |
|          |   |  |   |   | ○ | 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。                                 |              |
|          |   |  |   |   | ○ | 筆者の意見を踏まえた事例について粘り強く考察し適切に説明しようとしている。   |              |
| 10       | 【主張をつかむ】<br>「文化としての科学」<br>(池内了)   | 文章の骨格を的確にとらえ、要旨をつかむ力を身につける。  | ○ |   |   | 主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。   | 定期考査<br>課題   |
|          |   |  |   |   | ○ | 「読むこと」において、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。  |              |
|          |   |  |   |   | ○ | 筆者の表現を積極的に読み解いて、その主張を理解したうえで、学習課題に沿って自分の意見を具体的に述べようとしている。                                       |              |
| 11<br>12 | 【比べて読む】<br>「言葉の揺れ」を認めるか<br><br>「紙の本はなくなる」<br>(内田樹)<br><br>問題演習              | 封区数の情報や文章を比べて分析したり読んだりすることで、自分の考えを広げたり深めたりする。<br><br>これまでに身につけた語彙力や読解力をはかる | ○ |   |   | 個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。   | 小テスト<br>授業態度 |
|          |   |  |   |   | ○ | 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。                                 |              |
|          |   |  |   |   | ○ | 筆者の意見を踏まえた事例について粘り強く考察し適切に説明しようとしている。   |              |
| 1<br>2   | 【統計資料を活用する】<br>「量の時代から質の時代へ」<br>(甲斐かおり)<br><br>「若者の『海外旅行離れ』は本当か？」<br>(小林直樹) | 資料からデータを正しく読み取り、上手に、かつ、適切に活用する力を身につける。                                     | ○ |   |   | 論証したり、学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増やし、文章の中で使うことを通して、語感を磨き、語彙を豊かにしている。                                | 定期考査<br>課題   |
|          |   |  |   |   | ○ | 文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えている。   |              |
|          |   |  |   |   | ○ | 進んで論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、学習課題に沿って、資料との関係を把握して内容や構成を的確に捉え、自分の考えを論述したり討論したりしようとしている。 |              |
| 3        | 【レポートを書く】   | 情報を収集し、目的に応じて活用しながら自分の考えを筋道を立てて説明し、説得力のあるレポートの書き方を学ぶ。                      | ○ |   |   | 実用的な文章などの種類や特徴、構成や展開の仕方などについて理解を深めている。  | 小テスト<br>授業態度 |
|          |   |  |   |   | ○ | 読み手の同意が得られるよう、適切な根拠を効果的に用いるなど、文章の展開や構成を工夫している。  |              |
|          |   |  |   |   | ○ | 小論文を書く活動を通じて、根拠を明確にしながらか論じることが粘り強く理解し、自らの文章を改善しようとしている。   |              |

令和8年度 年間学習指導計画案

|       |             |     |      |              |                |
|-------|-------------|-----|------|--------------|----------------|
| 科目    | 国語表現        | 単位数 | 2単位  | 学年・学科・コース    | 2年・普通科・スポーツコース |
| 使用教科書 | 国語表現(大修館書店) |     | 副教材等 | 新国語便覧(第一学習社) |                |

1. 学習の到達目標と評価の観点

|         |  |
|---------|--|
| 学習の到達目標 | <p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</li> <li>・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</li> <li>・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</li> </ul> |
|---------|--|

| 評価の観点                        |   |  |
|------------------------------|---|--|
| a. 知識・技能                     | b. 思考・判断・表現   | c. 主体的に学習に取り組む態度   |
| 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けることができる。 | 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 | 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養うことができる。 |

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

| 月           | 学習項目                            | 学習内容(ねらい)                              | 評価の観点 |   |   | 評価規準  | 評価方法                       |
|-------------|---------------------------------|--|-------|---|---|---|----------------------------|
|             |                                 |  | a     | b | c |   |                            |
| 4           | 【言葉と出会う】<br>レッスン1~5<br>実践トレーニング | 言葉に関する基本的なルールや留意点を知り、自覚的に言葉を使うようにする。   | ○     |   |   | 言葉には、自己と他者の相互理解を深める働きがあることを理解している。                      | 定期考査<br>課題<br>小テスト<br>授業態度 |
|             |                                 |  |       | ○ |   | 自分の考えを明確にし、根拠となる情報を基に的確に説明するなど、表現の仕方を工夫している。            |                            |
|             |                                 |  |       |   | ○ | 分かりやすい説明に必要なことを粘り強く理解しようとしている。                          |                            |
| 5           | 【伝える・伝え合う】<br>レッスン1~4           | コミュニケーション力を高めるために、話したり書いたりして伝え合う練習をする。 | ○     |   |   | 自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増し、語彙を豊かにしている。               |                            |
|             |                                 |  |       | ○ |   | 相手の思いや考えを引き出したりする工夫をして、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。           |                            |
|             |                                 |  |       |   | ○ | 相手に共感をもって聞いたり読んだりしてもらうために必要なことを粘り強く理解しようとしている。          |                            |
| 6           | 【小論文・レポート入門】<br>レッスン1~2         | 読み手を納得させることができる、説得力のある文章の書き方を身につける。    | ○     |   |   | 実用的な文章などの種類や特徴、構成や展開の仕方などについて理解を深めている。                  |                            |
|             |                                 |  |       | ○ |   | 読み手の同意が得られるよう、適切な根拠を効果的に用いるなど、文章の展開や構成を工夫している。          |                            |
|             |                                 |  |       |   | ○ | 小論文を書く活動を通じて、根拠を明確にしながらか論じることを粘り強く理解し、自らの文章を改善しようとしている。 |                            |
| 7<br>8<br>9 | 【小論文・レポート入門】<br>レッスン3~7         | 読み手を納得させることができる、説得力のある文章の書き方を身につける。    | ○     |   |   | 実用的な文章などの種類や特徴、構成や展開の仕方などについて理解を深めている。                  | 定期考査<br>課題<br>小テスト<br>授業態度 |
|             |                                 |  |       | ○ |   | 読み手の同意が得られるよう、適切な根拠を効果的に用いるなど、文章の展開や構成を工夫している。          |                            |

|  |  |  |  |  |   |   |  |
|--|--|--|--|--|---|---|--|
|  |  |  |  |  | ○ | 小論文を書く活動を通じて、根拠を明確にしながらか論じることを粘り強く理解し、自らの文章を改善しようとしている。 |  |
|--|--|--|--|--|---|---|--|

| 月              | 学習項目                                      | 学習内容(ねらい)  | 評価の観点 |   |   | 評価規準  | 評価方法                       |
|----------------|---|--|-------|---|---|---|----------------------------|
|                |   |  | a     | b | c |   |                            |
| 10<br>11<br>12 | 【自己PRと面接】<br>レッスン1~7<br>実践トレーニング          | 自分の過去や現在を見つめ、将来に向かって着実に歩みを進めていくために、「自分」を的確に他者にアピールする力を身につける。 | ○     |   |   | 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深めている。<br>自分の考えを明確にし、根拠となる情報を基に的確に説明するなど、表現の仕方を工夫している。<br>相手に共感をもって聞いたり読んだりしてもらうために必要なことを粘り強く理解しようとしている。                    | 定期考査<br>課題<br>小テスト<br>授業態度 |
| 1<br>2<br>3    | 【会話・議論・発表】<br>レッスン1~4<br>ビブリオバトル<br>POP制作 | 目的に合った話し方を身につけ、効果的な表現方法を工夫し、身につけた力を自分の生活の中で活用する。             | ○     |   |   | 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深めている。<br>互いの主張や論拠を吟味したり、話し合いの進行や展開を助けたりするために発言を工夫するなどの工夫をしている。<br>ファシリテーションの意義や技法を粘り強く理解し、学習の見通しをもって話し合いの中で積極的に実践しようとしている。 | 定期考査<br>課題<br>小テスト<br>授業態度 |

令和8年度 年間学習指導計画案

|       |                                   |     |      |                         |                |
|-------|-----------------------------------|-----|------|-------------------------|----------------|
| 科目    | 地理総合                              | 単位数 | 2単位  | 学年・学科・コース               | 2年・普通科・スポーツコース |
| 使用教科書 | わたしたちの地理総合(山川出版社)<br>新詳高等地図(帝国書院) |     | 副教材等 | わたしたちの地理総合ワークブック(山川出版社) |                |

1. 学習の到達目標と評価の観点

|         |  |
|---------|--|
| 学習の到達目標 | 社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。 |
|---------|--|

| 評価の観点   |   |   |
|---|---|---|
| a. 知識・技能  | b. 思考・判断・表現   | c. 主体的に学習に取り組む態度  |
| 知識: 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解する。<br>技能: 地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。 | 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。 | 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深めている。 |

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

| 月 | 学習項目   | 学習内容(ねらい)   | 評価の観点 |   |   | 評価規準   | 評価方法                         |
|---|--|---|-------|---|---|--|------------------------------|
|   |  |   | a     | b | c |  |                              |
| 4 | 第1部 地図でとらえる現代社会<br>第1章 地図と地理情報システム<br>・地球上の位置と時差<br>・地図の役割と種類<br>第2章 結びつきを深める現代社会<br>・現代世界の国家と領域 | ・位置情報の基礎として、球体の地球、緯度・経度の基本的なしくみ、地球上での位置の示し方を理解する。<br>・経度の違いから時差の概念を捉え、時差計算の技能を身につけ、球面として成り立つ世界認識をもつ。                                      | ○     |   |   | 地球上での位置、太陽高度変化、緯度経度のしくみ、時差の計算の仕方を理解する。<br>球体の地球の観点から、図を活用して地球上の位置や時差を捉え、説明できる。<br>球体の地球の把握に向け意欲的に探究し、作業や考察に取り組もうとしている。   | 定期考査<br>授業態度<br>学習プリント<br>課題 |
| 5 | ・グローバル化する世界<br>第2部 国際社会と国際協力<br>第1章 生活文化の多様性と国際理解<br>・世界の地形と人々の生活                                | ・世界の大地形がプレートテクトニクスとプレート境界と関連し、変動帯では大地形を形成し、地震や火山が生じることを理解する。<br>・河川、海岸など外的営力による地形形成と広がり、地形に対応した人々の生活と地形を取り巻く環境の変化について、写真や地形図などの資料を通して考える。 | ○     |   |   | 地形に関する知識と世界の地形分布の特徴、地形図の等高線や地図記号を判読し、地形や土地利用を捉えることができる。<br>世界の地形をプレートテクトニクスと関連づけ、地形と比較して考察できる。<br>生活する地域の地形を、資料などから捉え、生活との関連を考察できる。<br>地形図や分布図、写真、模式図の読み取りや作業に意欲的に取り組み、地形と生活との関連を捉えようとする。          |                              |
| 6 | ・世界の気候と人々の生活   | ・大気や海流が循環するしくみを捉え、その影響を反映した気候の地域性があることを理解する。<br>・降水量と気温の特徴からケッペンの気候区分を捉え、植生や農業など生活文化に影響することを理解する。   | ○     |   |   | 大気の大循環と海洋、大気のしくみと各気候の特徴を理解し、資料から各気候と植生の関連、人々の生活を読み取り、整理できる。<br>世界規模の大気のしくみと人間生活との関連を資料から考察し、各気候による景観の違いを捉え、生活への影響を考察できる。<br>資料の判読を通じて、世界各地の気候や生活文化を意欲的に探究し、気候資料の作成に意欲的に取り組んでいる。                    |                              |
| 7 | ・世界の言語・宗教と人々の生活  | ・生活文化の多様性について、宗教、言語分布や人々との関わりを資料から理解し、分布を示す要因を理解する。<br>・世界の少数民族、移民、難民の問題を捉え、マイノリティなどをふまえた多様な人々に配慮し、自他の文化を尊重する社会の実現を考える。                   | ○     |   |   | 世界の多様性を理解し、異文化を尊重する姿勢が重要性を理解し、資料から世界の宗教分布と特徴を捉えることができる。<br>生活と宗教の関連を地域性や歴史的背景をから捉え、資料をもとに考察し、難民と移民の問題を資料から捉え、考察できる。<br>世界の宗教の特徴をまとめ、身近な地域の外国人の受け入れなどと関連させて追究し、難民と移民の問題構造を調べ、難民問題の解決策を意欲的に探究しようとする。 |                              |

| 月           | 学習項目   | 学習内容(ねらい)   | 評価の観点 |   |   | 評価規準  | 評価方法                         |
|-------------|--|---|-------|---|---|---|------------------------------|
|             |  |   | a     | b | c |   |                              |
| 8<br>・<br>9 | ・歴史的背景と人々の生活<br>・世界の産業と人々の生活   | ・生活文化が各地の環境に基づき発達する産業を基盤に成り立つ現状を捉え、世界スケールにおける各産業産業の地域的特徴をグローバル化の観点で理解する。<br>・産業と生活文化の関連と産業変化を主題図などの資料を通じて理解を深める。                            | ○     |   |   | 世界の視野からみた産業の特徴と分布を概観し、資料から世界の産業の分布と発達を捉えることができる。                          |                              |
|             |  |   |       | ○ |   | 自然環境が産業の形成に関わっていることを資料から考察し、産業の変化をグローバル化の観点で考察できる。                        |                              |
|             |  |   |       |   | ○ | 身近な商品が世界規模の産業構造に位置づけられること、産業の発達を時事的話題とともに意欲的に捉えようとする。                     |                              |
| 10          | 第2章 地球的課題と国際協力<br>・複雑に絡み合う地球的課題<br>・地球環境問題                             | ・持続可能な地球社会を考えるうえで、地球規模で起きている環境問題は、一国だけで対応できるものではないこと、多面的・多角的に考えていくことが必要であること、自らとかわかる問題であることをSDGsをふまえて認識する。                                  | ○     |   |   | SDGsの目標と趣旨を理解し、各種ウェブサイトや資料から環境問題を捉え、原因や影響を図解して整理できる。                      |                              |
|             |  |   |       | ○ |   | 地球環境問題を資料からまとめ、持続可能な社会の実現の提案し、自然を守るための取り組みや具体的な対策を提言できる。                  |                              |
|             |  |   |       |   | ○ | 地球環境問題の理解と、それらが人々の生活に与える影響を意欲的に探究し、どのような行動ができるかを追究しようとする。                 |                              |
| 11          | ・人口問題  | ・人口が急増している世界の現状を捉えるとともに、人口ピラミッドや相関図などの資料から人口問題の構造と地域差を捉え、人口問題の背景や問題点を整理する。  | ○     |   |   | 人口問題を理解し、人口増加地域と人口停滞地域の人口問題の違いを整理できる。<br>人口資料をもとにした図版を読み取り分析することができる。     | 定期考査<br>授業態度<br>学習プリント<br>課題 |
|             |  |   |       | ○ |   | 世界の人口問題の現状を資料を比較しながらまとめ、日本の人口問題についての提言を他国と比較しながら考察できる。                    |                              |
|             |  |   |       |   | ○ | 世界や主要国の人口の推移を捉え、他国の事例を参考にして日本と比較しながら人口問題について意欲的に探究しようとする。                 |                              |
| 12          | ・食糧問題<br>・都市・居住問題  | ・持続可能な社会をつくるために、飢餓とその要因である人口問題、食料問題について、主題図やグラフなどの資料を集め、グローバル、ローカルのそれぞれ異なる視点から根拠をもとにSDGsと関連づけ対応策を構想する。                                      | ○     |   |   | 世界の食料問題を主題図から現状を認識し、その自然的、社会的な背景を理解できる。                                   |                              |
|             |  |   |       | ○ |   | 飢餓と飽食の世界的な分布を資料から考察し、その背景とSDGsの目標をふまえ、具体的な対策を協議できる。                       |                              |
|             |  |   |       |   | ○ | 人口問題と食料問題を捉え、両者のつながりを図表などを用いて意欲的に整理し、国際協力を具体的に追究しようとする。                   |                              |
| 1           | 第3部 持続可能な地域づくりと私たち<br>第1章 自然環境と防災<br>・日本の自然環境<br>・地震…津波と防災<br>・火山災害と防災 | ・日本列島の地形と気候の特徴と、その多様性から自然の恩恵と自然災害を与える要素があることを理解する。<br>・各地の自然災害を理解し、各種災害の具体的な事例を新旧の地形図、ハザードマップ、気象情報、電子地図などを利用する技能と捉える。                       | ○     |   |   | 日本の自然環境の特徴と生活文化との関わりを理解する。  |                              |
|             |  |   |       | ○ |   | 日本の自然環境と生活との関わりを主題図や写真から考察できる。  |                              |
|             |  |   |       |   | ○ | 自然環境の特徴と自然災害とのつながりを意欲的に探究し、過去の災害事例を調ようとする。                                |                              |
| 2           | ・自然災害への備え  | ・自然災害はどのような自然環境と関係しているのか、それに対する備えはどうすれば良いのか考え、居住地域での防災・減災意識の向上につなげる。  | ○     |   |   | 災害の特徴、防災への取り組みや課題の理解、ハザードマップを活用し避難行動を考察する技能を身につけている。                      | 定期考査<br>授業態度<br>学習プリント<br>課題 |
|             |  |   |       | ○ |   | 自然災害を資料から読み取り、災害時の対策を考察し、生活圏の防災を資料から適切に判断し、課題と避難行動を協議できる。                 |                              |
|             |  |   |       |   | ○ | GISなどを活用し、自然災害への対策を意欲的に探究し、災害発生時の自助・共助・公助をふまえ、身近な場面を想定して、意欲的に対策を検討しようとする。 |                              |
| 3           | 第2章 生活圏の調査と地域の展望<br>・生活圏の調査と地域の展望                                      | ・日本の地域的な課題について、身近な地域を例に取り上げ、人口の少子高齢化、過疎化を景観観察や聞き取りを通じた調査の技能を身につける。<br>・現地調査と資料で得た結果をまとめ、他地域と比較して考察する技能を身につける。<br>・地域の活性化に向けたまちづくりのプランを発表する。 | ○     |   |   | 地域的課題の調査法を理解し、主題図に表現する方法と他地域と比較して考察する技能を身につけている。                          |                              |
|             |  |   |       | ○ |   | 調査で得られた結果を、主題図や表などに整理し、地域の特徴や課題を見つけ、まちづくりのプランを構想できる。                      |                              |
|             |  |   |       |   | ○ | 身近な地域の課題を見出し、主題図やグラフなどの資料の作成と調査結果を根拠にした課題解決に向けたまちづくりのプランを検討し、発表できる。       |                              |

令和8年度 年間学習指導計画案

|       |               |     |      |                       |                |
|-------|---------------|-----|------|-----------------------|----------------|
| 科目    | 公共            | 単位数 | 2単位  | 学年・学科・コース             | 2年・普通科・スポーツコース |
| 使用教科書 | 高等学校 公共(数研出版) |     | 副教材等 | 教科書準拠版 公共 整理ノート(数研出版) |                |

1. 学習の到達目標と評価の観点

|         |  |
|---------|--|
| 学習の到達目標 | 現代の諸課題について、様々な資料を基に理解を深め、事実を基に多面的・多角的に考察し、解決に向けて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら議論を重ねたりして、公共的な空間に生き国民主権を担う公民としての自覚を深めることを目指す。 |
|---------|--|

| 評価の観点  |   |  |
|--|---|--|
| a. 知識・技能   | b. 思考・判断・表現   | c. 主体的に学習に取り組む態度   |
| 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から必要となる情報を適切かつ効率的に調べまとめる技能を身に付けている。 | 現代社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や原理を活用し、事実を多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを討議する力を身に付けている。 | より良い社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うことができたか。また、公共的な空間に生き国民主権を担う公民としての自覚を深めている。 |

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

| 月           | 学習項目                          | 学習内容(ねらい)   | 評価の観点 |   |   | 評価規準  | 評価方法                     |
|-------------|-------------------------------|---|-------|---|---|---|--------------------------|
|             |                               |   | a     | b | c |   |                          |
| 4           | 巻頭特集<br>公共的な空間をつくる私たち         | ・身近なテーマを取り上げ自由に話しあうことで、公共的な空間を作っていく主体としての自覚を得る。                 | ○     |   |   | ・青年期や思想、宗教、多様な価値観などについて、幅広く理解する。                  | 定期考査<br>授業態度<br>ノート・プリント |
|             |                               |   |       | ○ |   | ・自己形成の課題について考察できる。                                |                          |
|             |                               |   |       |   | ○ | ・主体的に考え、話し合いに積極的に参加し、諸課題を追究しようとする。                |                          |
| 5<br>6      | 第1章<br>公共的な空間における人間としてのあり方生き方 | ・先哲の思想や生き方を学び、公共的な空間を作る主体としての自己を考察していく。<br>・現代の諸課題について考察する。     | ○     |   |   | ・先哲の思想や現代の諸課題を、幅広く理解する。                           | 定期考査<br>授業態度<br>ノート・プリント |
|             |                               |   |       | ○ |   | ・人間としての在り方生き方を、議論を通して考察し表現している。                   |                          |
|             |                               |   |       |   | ○ | ・主体的に考え、諸課題を追究しようとする。                             |                          |
| 7<br>8<br>9 | 第2章<br>公共的な空間における基本原理         | ・個人の尊重、民主主義、法の支配など、公共的な空間における基本原理を理解し、日本国憲法で保障されている権利を学び考察する。   | ○     |   |   | ・社会の基本的原理や憲法で保障されている権利について、理解する。                  | 定期考査<br>授業態度<br>ノート・プリント |
|             |                               |   |       | ○ |   | ・知識を基に、個人と社会との関わりについて考察できる。                       |                          |
|             |                               |   |       |   | ○ | ・憲法で保障されている権利を、自らの生活や生き方と結びつけることができる。             |                          |
| 10          | 第3章<br>ルールをつくり守る私たち           | ・法や規範の意義や役割を理解する。<br>・裁判員制度について理解を深め、公正な裁判のあり方を考察する。            | ○     |   |   | ・法や規範、裁判員制度などについて、基本的な事柄を理解する。                    | 定期考査<br>授業態度<br>ノート・プリント |
|             |                               |   |       | ○ |   | ・契約の例や裁判員裁判の例などを通して、自らのこととして捉え考察できる。              |                          |
|             |                               |   |       |   | ○ | ・ルール作りに興味・関心を持ち、積極的に参加しようとする。                     |                          |
| 11<br>12    | 第4章<br>政治に参加する私たち             | ・国内の政治の仕組み、地方自治、選挙制度などに加えて、国際政治にも目を向け、世界の紛争や人権問題について現状を知り、考察する。 | ○     |   |   | ・国内の政治の仕組み、国際政治などについて、幅広く理解する。                    | 定期考査<br>授業態度<br>ノート・プリント |
|             |                               |   |       | ○ |   | ・選挙制度や核軍縮などの現状を理解し、理想の仕組みとは何かを考察し、自らの考えを持つことができる。 |                          |
|             |                               |   |       |   | ○ | ・主体的に考え、国際的な人権問題も自らのこととして捉え考察しようとする。              |                          |

| 月      | 学習項目                         | 学習内容(ねらい)  | 評価の観点 |   |   | 評価規準                                      | 評価方法                     |
|--------|------------------------------|--|-------|---|---|---|--------------------------|
|        |                              |  | a     | b | c |   |                          |
| 1<br>2 | 第5章<br>経済活動を行う私たち            | ・現代の企業の役割や経済活動の仕組み、政府が経済に果たす役割などを理解するとともに、国際経済の仕組みにも目を向け、課題を理解し考察する。 | ○     |   |   | ・経済の基本的な仕組み、国際経済の仕組みなどについて、理解する。          | 定期考査<br>授業態度<br>ノート・プリント |
|        |                              |  |       | ○ |   | ・経済の面でもグローバル化が進んでいることを理解し、日本経済への影響を考察できる。 |                          |
|        |                              |  |       |   | ○ | ・主体的に考え、国際的な格差解消のために何をすべきかを考察しようとする。      |                          |
| 3      | 課題探究編<br>持続可能な社会づくりの主体となる私たち | ・現代社会の諸課題について、探究するための資料を収集・選択し、討論や発表などを通して深く考察する。                    | ○     |   |   | ・適切な資料を収集し、分析できる。                         |                          |
|        |                              |  |       | ○ |   | ・自らテーマを決め、収集した資料をもとに意見を組み立てることができる。       |                          |
|        |                              |  |       |   | ○ | ・主体的に考え、話し合いに積極的に参加し、諸課題を追究しようとする。        |                          |

令和8年度 年間学習指導計画案

|       |              |     |      |           |                |
|-------|--------------|-----|------|-----------|----------------|
| 科目    | 数学A          | 単位数 | 4単位  | 学年・学科・コース | 2年・普通科・スポーツコース |
| 使用教科書 | 最新 数学A(数研出版) |     | 副教材等 | なし        |                |

1. 学習の到達目標と評価の観点

|         |   |
|---------|---|
| 学習の到達目標 | 図形の性質、場合の数と確率について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。 |
|---------|---|

| 評価の観点   |   |  |
|---|---|--|
| a. 知識・技能  | b. 思考・判断・表現   | c. 主体的に学習に取り組む態度   |
| 図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 | 図形の構成要素間などの関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。 | 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。 |

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

| 月    | 学習項目                    | 学習内容（ねらい）   | 評価の観点 |   |   | 評価規準  | 評価方法                       |
|------|-------------------------|---|-------|---|---|---|----------------------------|
|      |                         |   | a     | b | c |   |                            |
| 4・5  | 第1章 場合の数と確率<br>第1節 場合の数 | ・場合の数を求めるとき<br>の基本的な考え方につ<br>いての理解を深め、そ<br>れらを事象の考察に活<br>用できるようにする。 | ○     |   |   | 場合の数を、もれなく重複なく数える<br>手段として、樹形図が有用である<br>ことを理解している。              | 定期考査<br>授業態度<br>小テスト<br>課題 |
|      |                         |   |       | ○ |   | 場合の数を数える適切な方針を考<br>察することができる。                                   |                            |
|      |                         |   |       |   | ○ | 組合せの考え方を利用して、図形の<br>個数や同じものを含む順列の総数<br>などが求められることに興味・関心<br>をもつ。 |                            |
| 6・7  | 第2節 確率                  | ・確率の意味や基本的な<br>法則についての理解を<br>深め、それらを事象の<br>考察に活用できるよ<br>うにする。       | ○     |   |   | 確率の意味を理解している。   |                            |
|      |                         |   |       | ○ |   | 2つの独立な試行を行うとき、その<br>結果として起こる事象の確率につ<br>いて考察することができる。            |                            |
|      |                         |   |       |   | ○ | 具体的事象について、反復試行の確<br>率を、興味をもって調べようとする。                           |                            |
| 8    | 第2章 図形の性質<br>第1節 三角形の性質 | ・三角形の性質につ<br>いての理解を深め、そ<br>れらを事象の考察に<br>活用できるようにする。                 | ○     |   |   | 三角形の内角・外角の二等分線と比<br>の性質を用いて、線分の長さを求め<br>ることができる。                |                            |
|      |                         |   |       | ○ |   | 証明する際に、適当な補助線を引い<br>て考察することができる。                                |                            |
|      |                         |   |       |   | ○ | 身近な問題に対し、チェバの定理を<br>活用できることを理解し、図形の性<br>質に興味・関心をもつ。             |                            |
| 9・10 | 第2節 円の性質                | ・円の性質につ<br>いての理解を深め、そ<br>れらを事象の考<br>察に活用できるよ<br>うにする。               | ○     |   |   | 中学校で学んだ円周角の定理やそ<br>の逆について理解している。                                |                            |
|      |                         |   |       | ○ |   | 方べきの定理は、円周角の定理や円<br>に内接する四角形の性質などを用<br>いて証明されることに興味をもつ。         |                            |
|      |                         |   |       |   | ○ | 2つの円の位置関係の判定条件とし<br>て、中心間の距離と半径の関係につ<br>いて、積極的に考察しようとする。        |                            |

| 月                    | 学習項目                                     | 学習内容 (ねらい)  | 評価の観点 |   |   | 評価規準  | 評価方法                       |
|----------------------|--|---|-------|---|---|---|----------------------------|
|                      |  |   | a     | b | c |   |                            |
| 11                   | 第3節 作図                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>作図についての理解を深め、作図の各過程において平面図形のどの性質を用いているかを考察できるようにする。</li> </ul>                           | ○     |   |   | 垂線を引く、垂直二等分線を引く、角の二等分線を引く、平行線を引くなどの基本的な作図を行うことができる。 | 定期考査<br>授業態度<br>小テスト<br>課題 |
|                      |  |   |       | ○ |   | 作図の各過程において、平面図形のどの性質を用いているかを考察できる。                  |                            |
|                      |  |   |       |   | ○ | 数学で扱う作図と、日常において図形をかくことでは、何が違うかを考えてみようとする。           |                            |
| 12・<br>1・<br>2・<br>3 | 第3章 数学と人間の活動<br>第1節 約数と倍数<br>第2節 1次不定方程式 | <ul style="list-style-type: none"> <li>さまざまな人間の活動の中から、整数を中心とした数学的な要素を見出し、数学の内容の理解を深めると同時に、現実の事象を、数学を用いて考察できるような力を培う。</li> </ul> | ○     |   |   | 約数・倍数の意味を理解している。                                    |                            |
|                      |  |   |       | ○ |   | 問題解決の過程を振り返って、割り算の余りの性質について考察を深めることができる。            |                            |
|                      |  |   |       |   | ○ | 日常生活における具体的な事象の考察に、約数と倍数の考えを活用しようとする。               |                            |

令和8年度 年間学習指導計画案

|       |              |     |      |                           |                |
|-------|--------------|-----|------|---------------------------|----------------|
| 科目    | 生物基礎         | 単位数 | 2単位  | 学年・学科・コース                 | 2年・普通科・スポーツコース |
| 使用教科書 | 新編生物基礎(東京書籍) |     | 副教材等 | ニューサポート改訂新編生物基礎<br>(東京書籍) |                |

1. 学習の到達目標と評価の観点

|         |  |
|---------|--|
| 学習の到達目標 | 自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験などを行うことを通して、科学的に探究する能力と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な自然観を育成する。生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。 |
|---------|--|

| 評価の観点  |  |   |
|--|--|---|
| a. 知識・技能   | b. 思考・判断・表現  | c. 主体的に学習に取り組む態度  |
| 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての観察、実験などを行うことを通して、生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能が身に付いている。 | 生物や生物現象を対象に、探究の過程を通して、問題を見いだすための観察、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法が習得できている。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究する力が育まれている。 | 生物や生物現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度が養われている。その際、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度が養われている。 |

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

| 月 | 学習項目   | 学習内容(ねらい)  | 評価の観点 |   |   | 評価規準   | 評価方法                        |
|---|--|--|-------|---|---|--|-----------------------------|
|   |  |  | a     | b | c |  |                             |
| 4 | 1編 生物の特徴<br>1章 生物の多様性と共通性<br>1節 生物の多様性<br>2節 生物の共通性<br>3節 細胞の特徴        | 生物の特徴について、生物の共通性と多様性を理解する。<br>生物の特徴について、生物の共通性と多様性を見いだして表現する。<br>生物の共通性と多様性に関する事物・現象に主体的にかかわる。               | ○     |   |   | 生物の特徴について、生物の共通性と多様性の基本的な概念や原理・法則などを理解している。                    | 定期考査<br>授業態度<br>課題<br>授業ノート |
|   |  |  |       | ○ |   | 生物の共通性と多様性について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現している。          |                             |
|   |  |  |       |   | ○ | 生物の共通性と多様性に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 |                             |
| 5 | 2章 生物とエネルギー<br>1節 生体とATP<br>2節 酵素の働き<br>3節 呼吸と光合成                      | 生物の特徴について、生物とエネルギーを理解する。<br>生物の特徴について、生物とエネルギーの関係性を見いだして表現する。<br>生物とエネルギーに関する事物・現象に主体的にかかわる。                 | ○     |   |   | 生物とエネルギーについて、生物とエネルギーの基本的な概念や原理・法則などを理解している。                   |                             |
|   |  |  |       | ○ |   | 生物とエネルギーについて、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現している。            |                             |
|   |  |  |       |   | ○ | 生物とエネルギーに関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。   |                             |
| 6 | 2編 遺伝子とそのはたらき<br>1章 遺伝情報とDNA<br>1節 生物と遺伝子<br>2節 DNAの構造<br>3節 DNAの複製と分配 | 遺伝子とそのはたらきについて、遺伝情報とDNAを理解する。<br>遺伝子とそのはたらきについて、遺伝情報を担う物質としてのDNAを見いだして表現する。<br>遺伝子とそのはたらきに関する事物・現象に主体的にかかわる。 | ○     |   |   | 遺伝子とそのはたらきについて、遺伝情報とDNAの基本的な概念や原理・法則などを理解している。                 |                             |
|   |  |  |       | ○ |   | 遺伝情報とDNAについて、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現している。            |                             |
|   |  |  |       |   | ○ | 遺伝情報とDNAに関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。   |                             |

| 月        | 学習項目  | 学習内容(ねらい)   | 評価の観点 |   |   | 評価規準  | 評価方法                        |
|----------|---|---|-------|---|---|---|-----------------------------|
|          |   |   | a     | b | c |   |                             |
| 7<br>8   | 2章 遺伝情報とタンパク質合成<br>1節 タンパク質<br>2節 タンパク質と遺伝情報<br>3節 細胞の分化と遺伝子                      | ・遺伝子とそのはたらきについて、遺伝情報とタンパク質の合成を理解する。<br>・遺伝子とそのはたらきについて、遺伝情報とタンパク質の合成との関係を見だして表現する。<br>・遺伝情報とタンパク質の合成に関する事象・現象に主体的にかかわる。 | ○     |   |   | ・遺伝子とそのはたらきについて、遺伝情報とタンパク質の合成の基本的な概念や原理・法則などを理解している。                            | 定期考査<br>授業態度<br>課題<br>授業ノート |
|          |   |   |       | ○ |   | ・遺伝情報とタンパク質の合成について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現している。                       |                             |
|          |   |   |       |   | ○ | ・遺伝情報とタンパク質の合成に関する事象・現象に進んでかかわり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。              |                             |
| 9        | 3編 ヒトの体の調節<br>1章 ヒトの体を調節するしくみ<br>1節 体内環境  | ・動物が体内環境をもち、外界からの影響を適切に調節していることを理解する。<br>・恒常性により、体内環境が保たれていることを表現する。<br>・体液の調節に関する事象・現象に主体的にかかわる。                       | ○     |   |   | ・体外環境と体内環境、体液の関係について理解している。   | 定期考査<br>授業態度<br>課題<br>授業ノート |
|          |   |   |       | ○ |   | ・体内環境の維持について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現している。                             |                             |
|          |   |   |       |   | ○ | ・体内環境に関する事象・現象に進んでかかわり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。                       |                             |
| 10       | 2節 神経系による情報伝達<br>3節 内分泌系による情報伝達   | ・体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見だして理解する。<br>・体内環境の調節に、神経系と内分泌系が関わっていることを表現する。<br>・自律神経とホルモンの作用に関する事象・現象に主体的にかかわる。             | ○     |   |   | ・神経系と内分泌系による調節について、情報の伝達の基本的な概念や原理・法則などを理解している。                                 | 定期考査<br>授業態度<br>課題<br>授業ノート |
|          |   |   |       | ○ |   | ・情報の伝達について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現している。                               |                             |
|          |   |   |       |   | ○ | ・情報の伝達に関する事象・現象に進んでかかわり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。                      |                             |
| 11<br>12 | 2章 免疫のはたらき<br>1節 免疫のしくみ<br>2節 免疫の応用<br>3節 免疫とさまざまな疾患                              | ・免疫について、免疫のはたらきを理解する。<br>・免疫について、観察、実験などを通して探究し、異物を排除する防御機構が備わっていることを見だして表現する。<br>・免疫のはたらきに関する事象・現象に主体的にかかわる。           | ○     |   |   | ・免疫について、免疫のはたらきの基本的な概念や原理・法則などを理解している。  | 定期考査<br>授業態度<br>課題<br>授業ノート |
|          |   |   |       | ○ |   | ・免疫のはたらきについて、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現している。                             |                             |
|          |   |   |       |   | ○ | ・免疫のはたらきに関する事象・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。                     |                             |
| 1<br>2   | 4編 生物の多様性と生態系<br>1章 植生と遷移<br>1節 身のまわりの植生<br>2節 植生の遷移<br>3節 遷移とバイオーム               | ・植生と遷移について、植生と遷移の要因を理解する。<br>・植生と遷移について、観察、実験などを通して探究し、遷移の要因を見だして表現する。<br>・植生と遷移に関する事象・現象に主体的にかかわる。                     | ○     |   |   | ・植生と遷移について、植生と遷移の基本的な概念や原理・法則などを理解している。   | 定期考査<br>授業態度<br>課題<br>授業ノート |
|          |   |   |       | ○ |   | ・植生と遷移について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現している。                               |                             |
|          |   |   |       |   | ○ | ・植生と遷移に関する事象・現象に進んでかかわり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。                      |                             |
| 3        | 2章 生態系と生物の多様性<br>1節 生態系における生物の多様性<br>2節 生態系における生物間関係<br>3節 生態系と人為的攪乱<br>4節 生態系の保全 | ・生態系とその保全について、生態系と生物の多様性、ならびに生態系のバランスと保全を理解する。<br>・生物の種多様性を見だすとともに、生態系のバランスと保全について表現する。<br>・生態系とその保全に関する事象・現象に主体的にかかわる。 | ○     |   |   | ・生態系とその保全について、生態系と生物の多様性、ならびに生態系のバランスと保全の基本的な概念や原理・法則などを理解している。                 | 定期考査<br>授業態度<br>課題<br>授業ノート |
|          |   |   |       | ○ |   | ・生態系と生物の多様性、ならびに生態系のバランスと保全について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現している。          |                             |
|          |   |   |       |   | ○ | ・生態系と生物の多様性、ならびに生態系のバランスと保全に関する事象・現象に進んでかかわり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 |                             |

令和8年度 年間学習指導計画案

|       |    |     |     |           |                      |
|-------|----|-----|-----|-----------|----------------------|
| 科目    | 体育 | 単位数 | 2単位 | 学年・学科・コース | 2年・普通科・普通コース、スポーツコース |
| 使用教科書 | なし |     |     | 副教材等      | なし                   |

1. 学習の到達目標と評価の観点

|         |  |
|---------|--|
| 学習の到達目標 | <p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。</li> <li>・運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。</li> <li>・生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。</li> </ul> |
|---------|--|

| 評価の観点  |   |  |
|--|---|--|
| a. 知識・技能   | b. 思考・判断・表現   | c. 主体的に学習に取り組む態度   |
| 運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身につけている。また、個人及び社会生活における健康・安全について総合的に理解しているとともに、技能を身につけている。 | 自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人及び社会生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。 | 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。また、健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。 |

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

| 月 | 学習項目           | 学習内容(ねらい)   | 評価の観点 |   |   | 評価規準  | 評価方法          |
|---|----------------|---|-------|---|---|---|---------------|
|   |                |   | a     | b | c |   |               |
| 4 | 体づくり運動         | ・心と体の関係に気づき、仲間と交流する。  | ○     |   |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己のねらいに応じて効果的な成果を得るための適切な運動の行い方を理解できる。</li> <li>・自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。</li> <li>・体づくり運動の学習に主体的に取り組もうとしている。</li> </ul>  | 授業態度<br>学習カード |
|   | 体育理論           | ・スポーツから得られる恩恵とスポーツについての課題の双方から、多角的に思考し判断し表現する学習を通して、個人がスポーツ文化を創造する主体となっていることに気づく。   | ○     |   |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解できる。</li> <li>・運動やスポーツの効果的な学習の仕方について課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに他者に伝えること。</li> <li>・体育理論の学習に主体的に取り組もうとしている。</li> </ul>   |               |
| 5 | 器械運動           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・(器械運動)技ができる楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方、運動の観察、体力の高め方を理解する。</li> <li>・(陸上競技)記録の向上や競争及び自己や仲間の課題を解決するなどの多様な楽しさや喜びを味わい、各種目特有の技能を身につける。</li> <li>・(ダンス)感じを込めて踊ったり仲間と自由に踊ったり、自己や仲間の課題を解決したりするなどの多</li> </ul> | ○     |   |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・(器械運動)回転系の接転技群、ほん転技群の基本的な技、巧技系の平均立ち技群の基本的な動きを理解するとともに、自己に適した技で演技することができる。</li> <li>・(陸上競技)技術と関連させた運動や練習を繰り返したり継続して行ったりすることで結果として体力を高めることができることを理解できる。</li> <li>・(ダンス)イメージを深めた表現や踊りを通じた交流や発表を理解できる。</li> <li>・(器械運動)自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えることができる。</li> </ul> |               |
| 6 | 陸上競技(競走・跳躍・投擲) |   |       |   | ○ |   |               |
| 7 | ダンスから選択        |   |       |   |   | ○   |               |
| 8 |                |   |       |   |   |   |               |

|                     |  |  |   |  |   |  |               |
|---------------------|--|--|---|--|---|--|---------------|
|                     |  | 様な楽しさや喜びを味わい、それぞれ特有の表現や踊り方を身につけて交流や発表する。   |   |  |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・(陸上競技) 自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えることができる。</li> <li>・(ダンス) 作品の創作や発表会に向けた仲間と話し合う場面で合意形成するための関わり方を見付け、仲間に伝えることができる。</li> </ul>   |               |
|                     |  |  |   |  | ○ | <ul style="list-style-type: none"> <li>・(器械運動・陸上競技・ダンス) 自主的に取り組み、互いに助け合い教え合うことや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にできる。</li> </ul>   |               |
| 9                   | 体育理論   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツから得られる恩恵とスポーツについての課題の双方から、多角的に思考し判断し表現する学習を通して、個人がスポーツ文化を創造する主体となっていることに気づく。</li> </ul>  | ○ |  |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツの技術と技能及び変化について理解できる。</li> <li>・運動の概念と自己の状況を関連付けたりして自己や社会についての課題を発見し他者に伝えることができる。</li> <li>・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に自主的に取り組むことができる。</li> </ul>   |               |
| 9<br>10<br>11<br>12 | 球技・武道から選択<br><br>球技(ゴール型・ネット型<br>ベースボール型)<br>武道(剣道・柔道) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・(球技) 勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する。</li> <li>・(武道) 勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、得意技などを用いた攻防を展開する。</li> </ul> | ○ |  |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・(球技) 型や種類によって必要な体力要素がありその型や種目の技能に関連させながら体力を高めることができる。</li> <li>・(武道) 伝統的な考え方は「道」を追及する大切な仲間であることを理解できる。</li> <li>・(球技) チームでの学習で状況に応じてチームや自己の役割を他者に伝えることができる。</li> <li>・(武道) 練習や試合の場面で自己や仲間の危険を回避するための活動の仕方を提案することができる。</li> <li>・(球技) 一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にすることができる。</li> <li>・(武道) 相手を尊重し礼法などの伝統的な行動の仕方を大切にしようとするすることができる。</li> </ul> | 授業態度<br>学習カード |
| 10<br>11            | 陸上競技(長距離走)   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・記録の向上や競争を通して得られる楽しさや喜びに加えて、体力や技能の程度等に関わらず「する、みる、支える、知る」などのスポーツの多様な楽しさや喜びを味わう。</li> </ul>   | ○ |  |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で設定したペースの変化や仲間のペースに応じてストライドやピッチを切り替えて走ることができる。</li> <li>・自己や仲間の動きを分析して良い点や修正点を指摘することができる。</li> <li>・一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にすることができる。</li> </ul>   |               |
| 2                   | 体育理論   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツから得られる恩恵とスポーツについての課題の双方から、多角的に思考し判断し表現する学習を通して、個人がスポーツ文化を創造する主体となっていることに気づく。</li> </ul>  | ○ |  |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動やスポーツを行う際は気象条件の変化など様々な危険を予見し回避することについて理解できる。</li> <li>・運動やスポーツの活動時の健康、安全の確保の仕方について習得した知識を基に環境の異なる場所や変化を想定して危険を予見し回避するための自己の提案を言葉や文章などを通して他者に伝えることができる。</li> <li>・体育理論の学習に主体的に取り組もうとしている。</li> </ul>  | 授業態度<br>学習カード |
| 2<br>3              | 体づくり運動   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための継続的な運動の計画たて、取り組む。</li> </ul>  | ○ |  |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・体力の構成要素は健康に生活するための体力と運動を行うための体力に密接に関係していることを理解することができる。</li> <li>・学習課題に応じて、これまでに学習した内容を学習場面に応用することができる。</li> <li>・一人一人の違いを大切に、健康・安全を確保することができる。</li> </ul>   |               |

令和8年度 年間学習指導計画案

|       |                 |     |      |                    |                      |
|-------|-----------------|-----|------|--------------------|----------------------|
| 科目    | 保健              | 単位数 | 1単位  | 学年・学科・コース          | 2年・普通科・普通コース、スポーツコース |
| 使用教科書 | 現代高等保健体育(大修館書店) |     | 副教材等 | 現代高等保健体育ノート(大修館書店) |                      |

1. 学習の到達目標と評価の観点

|         |   |
|---------|---|
| 学習の到達目標 | 生涯を通じる健康について、思春期、結婚生活、加齢の段階において、健康、行動、生活などに課題や特徴があること、また、労働の形態や環境の変化に伴った健康及び安全の課題について理解する。<br>人間の生活や産業活動が自然環境を汚染し健康に影響を及ぼすことを理解し、改善の対策を考える。 |
|---------|---|

評価の観点

| a. 知識・技能  | b. 思考・判断・表現  | c. 主体的に学習に取り組む態度   |
|---|--|--------------------|
| 生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていることを理解している。 | 生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。 | 学習に主体的に取り組もうとしている。 |

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

| 月      | 学習項目                                       | 学習内容(ねらい)  | 評価の観点 |   |   | 評価規準   | 評価方法                  |
|--------|--|--|-------|---|---|--|-----------------------|
|        |  |  | a     | b | c |  |                       |
| 4      | 3単元 生涯を通じる健康<br>1 ライフステージと健康<br>2 思春期と健康   | ・ライフステージと健康の関連について説明できる。<br>・思春期における体の変化を女性と男性に分けて説明できる。                             | ○     |   |   | ・生涯の各段階と健康の関わりについて、理解したことを言ったり書いたりしている。<br>・健康に関わる原則や概念を基に整理したり個人及び社会生活と関連付け他や社会の課題を発見している。<br>・思春期と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。                       | 定期考査<br>授業態度<br>学習ノート |
|        |  |  |       | ○ |   |  |                       |
|        |  |  |       |   | ○ |  |                       |
| 5      | 3 性意識と性行動の選択<br>4 妊娠・出産と健康<br>5 避妊法と人工妊娠中絶 | ・性意識の男女差について例をあげて説明できる。<br>・妊娠、出産の過程における健康課題について説明できる。<br>・人工妊娠中絶が心身に及ぼす影響について説明できる。 | ○     |   |   | ・受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題について理解したことを言ったり書いたりしている。<br>・思春期と健康について習得した知識をもとに心身の発達や性的成熟に伴う健康課題を解決するために性に関わる情報を適切に整理している。<br>・妊娠、出産と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。 |                       |
|        |  |  |       | ○ |   |  |                       |
|        |  |  |       |   | ○ |  |                       |
| 6      | 6 結婚生活と健康<br>7 中高年期と健康<br>8 働くことと健康        | ・心身の発達と結婚生活の関係について説明できる。<br>・加齢に伴う心身の変化について説明できる。<br>・働くことの意義と健康とのかかわりについて説明できる。     | ○     |   |   | ・加齢に伴い心身の機能や形態が変化することについて理解したことを言ったり書いたりしている。<br>・中高年期の疾病や事故のリスク軽減のための個人の取り組みと社会的な対策を整理している。<br>・働くことと健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。                     |                       |
|        |  |  |       | ○ |   |  |                       |
|        |  |  |       |   | ○ |  |                       |
| 7<br>8 | 9 労働災害と健康<br>10健康的な職業生活                    | ・労働災害の種類とその原因について説明できる。<br>・余暇を積極的にとることの意義について説明できる。                                 | ○     |   |   | ・労働災害を防止する対策が必要であることについて、言ったり書いたりしている。<br>・労働災害の防止に向けて個人の取り組みと社会的な取り組みについて整理している。<br>・健康的な職業生活について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。                               |                       |
|        |  |  |       | ○ |   |  |                       |
|        |  |  |       |   | ○ |  |                       |

| 月       | 学習項目   | 学習内容(ねらい)  | 評価の観点 |   |   | 評価規準   | 評価方法                  |
|---------|--|--|-------|---|---|--|-----------------------|
|         |  |  | a     | b | c |  |                       |
| 9       | 4単元 健康を支える環境づくり<br>1 大気汚染と健康<br>2 水質汚濁、土壌汚染と健康 | ・大気汚染の原因と健康への影響について説明できる。<br>・大気、水、土壌にまたがる複合的な環境汚染の発生のしくみについて説明できる。                    | ○     |   |   | ・人間の生活や産業活動は大気汚染、水質汚濁、土壌汚染などの自然環境汚染を引き起こし健康に影響を及ぼしたり被害をもたらすことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。<br>・健康に関わる原則や概念を基に整理し、自他や社会の課題を発見している。<br>・健康を支える環境づくりについて課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。                   | 定期考査<br>授業態度<br>学習ノート |
|         |  |  |       | ○ |   |  |                       |
|         |  |  |       |   | ○ |  |                       |
| 10      | 3 環境と健康にかかわる対策<br>4 ゴみの処理と上下水道の整備              | ・産業廃棄物の処理について説明できる。<br>・ごみの処理の現状やその課題について説明できる。  | ○     |   |   | ・汚染物質の排出をできるだけ制御したり排出された汚染物質を適切に処理する必要性を理解し言ったり書いたりしている。<br>・産業活動によって引き起こされる自然環境汚染について自他や社会の課題を発見している。<br>・環境と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。   | 定期考査<br>授業態度<br>学習ノート |
|         |  |  |       | ○ |   |  |                       |
|         |  |  |       |   | ○ |  |                       |
| 11      | 5 食品の安全性<br>6 食品生活にかかわる活動<br>7 健康サービスとその活用     | ・食品の安全性と健康とのかかわりについて説明できる。<br>・食品の安全性を確保するための行政や製造者の役割について説明できる。<br>・保健行政の役割について説明できる。 | ○     |   |   | ・健康を保持増進するには、自らの健康を適切に管理することが必要であるとともに、環境づくりが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。<br>・健康の考え方について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。<br>・健康の考え方について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。 | 定期考査<br>授業態度<br>学習ノート |
|         |  |  |       | ○ |   |  |                       |
|         |  |  |       |   | ○ |  |                       |
| 12<br>1 | 8 医療サービスとその活用<br>9 医薬品の制度とその活用                 | ・わが国における医療保険のしくみについて説明できる。<br>・医薬品の安全性を守る取り組みについて説明できる。                                | ○     |   |   | ・疾病からの回復や悪化の防止には個々の医薬品の特性について理解したことを言ったり書いたりしている。<br>・医薬品の制度とその活用について医薬品には承認制度があり販売に規制が設けられていること関連付けながら生活の質の向上のため、自他や社会の課題を発見している。<br>・医療サービスについて、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。                  | 定期考査<br>授業態度<br>学習ノート |
|         |  |  |       | ○ |   |  |                       |
|         |  |  |       |   | ○ |  |                       |
| 2<br>3  | 10さまざまな保健活動や社会的対策<br>11健康に関する環境づくりと社会参加        | ・国際機関、民間機関などの保健活動について説明できる。<br>・環境づくりへの主体的な参加が自他の健康づくりにつながることを説明できる。                   | ○     |   |   | ・健康を支えるために健康課題に対応して各種の保健活動や社会的対策について理解したことを言ったり書いたりしている。<br>・地域の保健、医療機関やスポーツ施設の活用の仕方について、自他や社会の課題を発見している。<br>・保健活動について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。   | 定期考査<br>授業態度<br>学習ノート |
|         |  |  |       | ○ |   |  |                       |
|         |  |  |       |   | ○ |  |                       |

令和8年度 年間学習指導計画案

|       |  |     |      |  |                |
|-------|--|-----|------|--|----------------|
| 科目    | 英語コミュニケーションⅡ                           | 単位数 | 3単位  | 学年・学科・コース                                    | 2年・普通科・スポーツコース |
| 使用教科書 | VISTA English Communication Ⅱ<br>(三省堂) |     | 副教材等 | VISTA English Communication Ⅱ<br>ワークブック(三省堂) |                |

1. 学習の到達目標と評価の観点

|         |                                   |
|---------|-----------------------------------|
| 学習の到達目標 | コミュニケーションの目的達成のために、自力で取り組むことができる。 |
|---------|-----------------------------------|

| 評価の観点  |  |  |
|--|--|--|
| a. 知識・技能   | b. 思考・判断・表現  | c. 主体的に学習に取り組む態度   |
| ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。<br>・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につけている。 | コミュニケーションを行う目的や場面などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを利用して適切に表現したり伝えあったりしている。 | 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手／書き手／聞き手／読み手に配慮しながら主体的・自律的に外国語を用いて意思疎通を図ろうとしている。 |

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

| 月      | 学習項目                                    | 学習内容(ねらい)   | 評価の観点 |   |   | 評価規準   | 評価方法                        |
|--------|---|---|-------|---|---|--|-----------------------------|
|        |   |   | a     | b | c |  |                             |
| 4<br>5 | LESSON 1<br>World Dance<br>Performances | <ul style="list-style-type: none"> <li>●さまざまな伝統舞踊の由来やパフォーマンスにこめられた意味について、理解して考えを深めることができる。</li> <li>●伝統舞踊／映画／イベント／ダンスの授業についてやりとりしたり、頼みごとの経験について発表したり、アンケートの回答を書くことができる。</li> <li>●不定詞を含む文法を使い、理解したり、発信したりすることができる。</li> </ul> | ○     | ○ | ○ | 〈動詞+目的語+to 不定詞〉と 〈疑問詞+to 不定詞〉の文構造に関する事項について理解し、活用できる。<br>さまざまな伝統舞踊について、理解を深めるために、内容を読んだり聞いたりして、概要や要点を把握している。また、その内容について話したり書いたりして、相手にわかりやすく伝えている。<br>本文に関連する内容について、ペアで話したり、自分の意見を伝えたりして自分の考えを整理し、自分の意見を表現しようとしている。 | 定期考査<br>発問評価<br>提出物<br>小テスト |
| 5<br>6 | LESSON 2<br>A Piece of Cake             | <ul style="list-style-type: none"> <li>●英語と日本語の慣用句について、理解して考えを深めることができる。</li> <li>●英語と日本語の慣用句／動物／旅行／アンケートへの意見についてやりとりしたり、旅行／アンケート結果について書いて発表することができる。</li> <li>●疑問詞や if を使い、理解したり、発信したりすることができる。</li> </ul>                   | ○     | ○ | ○ | 疑問詞や if で始まる節に関する事項について理解し、活用できる。<br>英語と日本語の慣用句について、理解を深めるために、内容を読んだり聞いたりして、概要や要点を把握している。また、その内容について話したり書いたりして、相手にわかりやすく伝えている。<br>本文に関連する内容について、ペアで話したり、自分の意見を伝えたりして自分の考えを整理し、自分の意見を表現しようとしている。                    |                             |
| 7<br>8 | LESSON 3<br>Quokka                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>●オーストラリアの有袋類の動物クオッカについて、理解して考えを深めることができる。</li> <li>●クオッカ／絶滅危惧種についてやりとりしたり、日常生活について発表したり、好きな歌や本／オーストラリアの動物について考え書くことができる。</li> <li>●知覚動詞や使役動詞を使い、理解したり、発信したりすることができる。</li> </ul>        | ○     | ○ | ○ | 使役動詞と知覚動詞に関する事項について理解し、活用できる。<br>クオッカ／絶滅危惧種について理解を深めるために、内容を読んだり聞いたりして、概要や要点を把握している。また、その内容について話したり書いたりして、相手にわかりやすく伝えている。<br>本文に関連する内容について、ペアで話したり、自分の意見を伝えたりして自分の考えを整理し、自分の意見を表現しようとしている。                         |                             |

| 月       | 学習項目                                | 学習内容(ねらい)  | 評価の観点 |   |   | 評価規準   | 評価方法                        |
|---------|-------------------------------------|--|-------|---|---|--|-----------------------------|
|         |                                     |  | a     | b | c |  |                             |
| 9       | LESSON 4<br>Designing Stamps        | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 玉木明さんへのインタビューについて、理解して考えを深めることができる。</li> <li>● 切手/英語学習/切手についての発表へのコメントについてやりとりしたり、家事について感じていること/日本の切手についての紹介を書いて発表することができる。</li> <li>● 形式目的語を使い、理解したり、発信したりすることができる。</li> </ul> | ○     |   |   | <b>形式主語 it と形式目的語 it</b> に関する事項について理解し、活用できる。  |                             |
|         |                                     |  |       | ○ |   | <b>玉木明さんへのインタビュー</b> について、理解を深め、内容を读んだり聞いたりして、概要や要点を把握したり、 <b>家事/日本の切手</b> について話したり聞いたりして伝えている。              |                             |
|         |                                     |  |       |   | ○ | 本文に関連する内容について、ペアで話したり、自分の意見を伝えたりして自分の考えを整理し、自分の意見を表現しようとしている。  |                             |
| 10      | LESSON 5<br>Mont-Saint-Michel       | <ul style="list-style-type: none"> <li>● モン・サン・ミシェルについて、理解して考えを深めることができる。</li> <li>● モン・サン・ミシェル/趣味/日本の世界遺産についてやりとりしたり、過去の旅行先について書いて発表することができる</li> <li>● 現在完了進行形/過去完了形/過去完了進行形を使い、理解したり、発信したりすることができる。</li> </ul>        | ○     |   |   | <b>現在完了進行形/過去完了形/過去完了進行形</b> に関する事項について理解し、活用できる。  |                             |
|         |                                     |  |       | ○ |   | <b>モン・サン・ミシェル/趣味/日本の世界遺産</b> について、理解を深めるために、内容を读んだり聞いたりして、概要や要点を把握している。また、その内容について話したり書いたりして、相手にわかりやすく伝えている。 |                             |
|         |                                     |  |       |   | ○ | 本文に関連する内容について、ペアで話したり、自分の意見を伝えたりして自分の考えを整理し、自分の意見を表現しようとしている。  |                             |
| 11      | LESSON 6<br>Smart Agriculture       | <ul style="list-style-type: none"> <li>● スマート農業について、理解して考えを深めることができる。</li> <li>● スマート農業/忘れられない経験/ポスターの感想/ドローンの危険性についてやりとりができる。</li> <li>● 現在完了形の受け身/助動詞+受け身、助動詞+受け身を使い、理解したり、発信したりすることができる。</li> </ul>                   | ○     |   |   | <b>現在完了形の受け身/助動詞+受け身</b> に関する事項について理解し、活用できる。  |                             |
|         |                                     |  |       | ○ |   | <b>スマート農業</b> について、理解を深めるために、内容を读んだり聞いたりして、概要や要点を把握している。   |                             |
|         |                                     |  |       |   | ○ | 本文に関連する内容について、ペアで話したり、自分の意見を伝えたりして自分の考えを整理し、自分の意見を表現しようとしている。  |                             |
| 12<br>1 | LESSON 7<br>Martial Art on Tatami   | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 競技かるたについて、理解して考えを深めることができる。</li> <li>● 競技かるた/アニメについてやりとりしたり、正月の風物について発表したり、日本のお土産について書くことができる。</li> <li>● 関係代名詞の非制限用法/関係代名詞 what を使い、理解したり、発信したりすることができる。</li> </ul>            | ○     |   |   | <b>関係代名詞の非制限用法/関係代名詞 what</b> に関する事項について理解し、活用できる。   |                             |
|         |                                     |  |       | ○ |   | <b>競技かるた</b> について、理解を深めるために、内容を读んだり聞いたりして、概要や要点を把握している。  |                             |
|         |                                     |  |       |   | ○ | 本文に関連する内容について、ペアで話したり、自分の意見を伝えたりして自分の考えを整理し、自分の意見を表現しようとしている。  |                             |
| 2       | LESSON 8<br>Biologging              | <ul style="list-style-type: none"> <li>● バイオロギングについて、理解して考えを深めることができる。</li> <li>● バイオロギング/海の生き物/好きな食べ物についてやりとりしたり、学校内の出来事について書いたり、ペットの記録計について書いて発表したりすることができる。</li> <li>● 分詞構文/強調構文を使い、理解したり、発信したりすることができる。</li> </ul>   | ○     |   |   | <b>分詞構文/強調構文</b> に関する事項について理解し、活用できる。  | 定期考査<br>発問評価<br>提出物<br>小テスト |
|         |                                     |  |       | ○ |   | <b>バイオロギング</b> について、理解を深めるために、内容を读んだり聞いたりして、概要や要点を把握している。また、その内容について話したり書いたりして、相手にわかりやすく伝えている。               |                             |
|         |                                     |  |       |   | ○ | 本文に関連する内容について、ペアで話したり、自分の意見を伝えたりして自分の考えを整理し、自分の意見を表現しようとしている。  |                             |
| 3       | ENJOY READING! I<br>The Open Window | <ul style="list-style-type: none"> <li>● ナトル氏と登場人物のやり取りで進む物語について、理解して考えを深めることができる。</li> <li>● 物語について、続きを想像して、書いたり発表することができる。</li> </ul>  | ○     |   |   | <b>物語</b> について、理解を深めるために、内容を读んだり聞いたりして、概要や要点を把握している。   |                             |
|         |                                     |  |       | ○ |   | 本文に関連する内容について、ペアで話したり、自分の意見を伝えたりして自分の考えを整理し、自分の意見を表現しようとしている。  |                             |

令和8年度 年間学習指導計画案

|       |                                       |     |      |           |                |
|-------|---------------------------------------|-----|------|-----------|----------------|
| 科目    | 論理・表現 I                               | 単位数 | 2単位  | 学年・学科・コース | 2年・普通科・スポーツコース |
| 使用教科書 | VISTA Logic and Expression I<br>(三省堂) |     | 副教材等 | なし        |                |

1. 学習の到達目標と評価の観点

|         |   |
|---------|---|
| 学習の到達目標 | スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション、一つの段落の文章を書くことなどを通して、論理の構成や展開を工夫して話したり書いたりして伝える又は伝え合うことなどができる。 |
|---------|---|

| 評価の観点  |   |   |
|--|---|---|
| a. 知識・技能   | b. 思考・判断・表現   | c. 主体的に学習に取り組む態度  |
| <b>【知識】</b><br>英語の特徴やきまりを理解している。<br><b>【技能】</b><br>コミュニケーションを行う目的や場面・状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、論理性に注意して伝える技能を身につけている。 | コミュニケーションを行う目的や場面・状況に応じて、情報や考え・気持ちなどを論理性に注意して伝えている。 | 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、読み手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてやり取りしようとしたり、発表しようとしたり、書くこととしたりしている。 |

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

| 月           | 学習項目   | 学習内容(ねらい)   | 評価の観点 |   |   | 評価規準   | 評価方法                        |
|-------------|--|---|-------|---|---|--|-----------------------------|
|             |  |   | a     | b | c |  |                             |
| 4<br>5      | Lesson 8<br>Great Inventions<br>あなたが選ぶすぐれた発明品は?! | <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>すぐれた発明品</b>について、自分の考えや気持ち、情報などを、論理の構成や展開を工夫して、書いて伝えることができる。</li> <li>● <b>助動詞 (can/may)</b> について理解している。</li> </ul>              | ○     |   |   | <b>助動詞 (can/may)</b> に関する事項を理解し、活用することができる。<br>自分の考えや気持ち、情報などを、論理の構成や展開を工夫して、理由とともに話したり、書いたりして相手に伝えている。<br>下記の点について評価する。<br>・間違うことを恐れずに、対話をしている。<br>・うまく言えないことがあっても、別の語句や表現を使って言い換えたりするなどして、対話を継続しようとしている。<br>・あいづちを打ったり質問をしたりして、相手の話に関心を示して聞いている。<br>・タスクの後にうまく言えたことや言えなかったことを振り返ろうとしている。<br>・表現をタスクで使おうとしている。<br>(以下cの観点については基本的に同じのため、*で表示します。) | 定期考査<br>発問評価<br>提出物<br>小テスト |
| 6           | Lesson 9<br>Save the Earth<br>ホテルが住める地球を!        | <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>環境問題</b>について、自分の考えや気持ち、情報などを、論理の構成や展開を工夫して、書いて伝えることができる。</li> <li>● <b>助動詞 (must / have to / should)</b> について理解している。</li> </ul> | ○     |   |   | <b>助動詞 (must / have to / should)</b> に関する事項を理解し、活用することができる。<br>自分の考えや気持ち、情報などを、論理の構成や展開を工夫して、理由とともに話したり、書いたりして相手に伝えている。<br>*   |                             |
| 7<br>8<br>9 | Lesson 10<br>Masterpiece<br>芸術はこころの栄養!!          | <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>芸術作品</b>について、自分の考えや気持ち、情報などを、論理の構成や展開を工夫して、書いて伝えることができる。</li> <li>● <b>受動態</b>について理解している。</li> </ul>                            | ○     |   |   | <b>受動態</b> に関する事項を理解し、活用することができる。<br>自分の考えや気持ち、情報などを、論理の構成や展開を工夫して、理由とともに話したり、書いたりして相手に伝えている。<br>*   |                             |

| 月      | 学習項目  | 学習内容(ねらい)   | 評価の観点 |   |   | 評価規準   | 評価方法                        |
|--------|---|---|-------|---|---|--|-----------------------------|
| 10     | Lesson 11<br>My Future Job<br>あなたは将来どんな人?         | ● <u>将来なりたい職業</u> について、自分の考えや気持ち、情報などを、論理の構成や展開を工夫して、書いて伝えることができる。<br><br>● <u>不定詞・動名詞</u> について理解している。          | ○     |   |   | <u>不定詞・動名詞</u> に関する事項を理解し、活用することができる。                    | 定期考査<br>発問評価<br>提出物<br>小テスト |
|        |   |   |       | ○ |   | 自分の考えや気持ち、情報などを、論理の構成や展開を工夫して、理由とともに話したり、書いたりして相手に伝えている。 |                             |
|        |   |   |       |   | ○ | *  |                             |
| 11     | Lesson 12<br>World Heritage<br>モン・サン・ミシエルへの旅      | ● <u>世界遺産</u> について、自分の考えや気持ち、情報などを、論理の構成や展開を工夫して、書いて伝えることができる。<br><br>● <u>不定詞の副詞的用法</u> について理解している。            | ○     |   |   | <u>不定詞の副詞的用法</u> に関する事項を理解し、活用することができる。                  | 定期考査<br>発問評価<br>提出物<br>小テスト |
|        |   |   |       | ○ |   | 自分の考えや気持ち、情報などを、論理の構成や展開を工夫して、理由とともに話したり、書いたりして相手に伝えている。 |                             |
|        |   |   |       |   | ○ | *  |                             |
| 12     | Lesson 13<br>Pictogram<br>トイレはどこ?                 | ● <u>人々の様子やピクトグラム</u> について、自分の考えや気持ち、情報などを、論理の構成や展開を工夫して、書いて伝えることができる。<br><br>● <u>分詞および動名詞の文構造</u> について理解している。 | ○     |   |   | <u>分詞</u> に関する事項を理解し、活用することができる。                         | 定期考査<br>発問評価<br>提出物<br>小テスト |
|        |   |   |       | ○ |   | 自分の考えや気持ち、情報などを、論理の構成や展開を工夫して、理由とともに話したり、書いたりして相手に伝えている。 |                             |
|        |   |   |       |   | ○ | *  |                             |
| 1      | Lesson 14<br>Cool Japan<br>ふろしきって、カッコイイね!         | ● <u>日本文化</u> について、自分の考えや気持ち、情報などを、論理の構成や展開を工夫して、書いて伝えることができる。<br><br>● <u>関係代名詞</u> について理解している。                | ○     |   |   | <u>関係代名詞</u> に関する事項を理解し、活用することができる。                      | 定期考査<br>発問評価<br>提出物<br>小テスト |
|        |   |   |       | ○ |   | 自分の考えや気持ち、情報などを、論理の構成や展開を工夫して、理由とともに話したり、書いたりして相手に伝えている。 |                             |
|        |   |   |       |   | ○ | *  |                             |
| 2<br>3 | Lesson 15<br>What's SDGs?<br>地球上のすべての人が幸せに暮らすために! | ● <u>国際協力や SDGs</u> について、自分の考えや気持ち、情報などを、論理の構成や展開を工夫して、書いて伝えることができる。<br><br>● <u>仮定法</u> について理解している。            | ○     |   |   | <u>仮定法</u> に関する事項を理解し、活用することができる。                        | 定期考査<br>発問評価<br>提出物<br>小テスト |
|        |   |   |       | ○ |   | 自分の考えや気持ち、情報などを、論理の構成や展開を工夫して、理由とともに話したり、書いたりして相手に伝えている。 |                             |
|        |   |   |       |   | ○ | *  |                             |

令和8年度 年間学習指導計画案

|       |                   |     |      |                    |                      |
|-------|-------------------|-----|------|--------------------|----------------------|
| 科目    | 情報 I              | 単位数 | 2単位  | 学年・学科・コース          | 2年・普通科・普通コース、スポーツコース |
| 使用教科書 | 最新情報 I 新訂版 (実教出版) |     | 副教材等 | 最新情報 I 学習ノート(実教出版) |                      |

1. 学習の到達目標と評価の観点

|         |  |
|---------|--|
| 学習の到達目標 | <p>情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについての理解を深めるようにする。</p> <p>(2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。</p> <p>(3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。</p> |
|---------|--|

評価の観点

| a. 知識・技能   | b. 思考・判断・表現  | c. 主体的に学習に取り組む態度  |
|--|--|---|
| 情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身に付けているとともに、情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。 | 事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。 | 情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。 |

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

| 月 | 学習項目   | 学習内容(ねらい)   | 評価の観点 |   |   | 評価規準  | 評価方法               |
|---|--|---|-------|---|---|---|--------------------|
|   |  |   | a     | b | c |   |                    |
| 4 | 第1章 情報社会と問題解決<br>第1節 情報と情報社会<br>① 情報と社会の発展<br>② 情報技術が築く新しい社会<br>③ 情報の特性<br>④ 情報のモラルと個人に及ぼす影響   | ・情報やデータ、知識の創出について学ぶ。<br>・社会の発展と基盤技術、新しい情報社会について理解する。<br>・人工知能(AI)など新しい情報技術について理解し、どのような社会的課題を解決できるか考える。 | ○     |   |   | ・データ、情報、知識の意味と相互の関係について説明することができる。  | 定期検査<br>授業態度<br>課題 |
|   |  |   |       | ○ |   | ・新しい情報技術によって、どのような社会的課題が解決できるか、事例をあげることができる。<br>・情報や情報技術が社会に果たす役割やこれからの情報社会についてインターネットなどで調べようとしている。 |                    |
| 5 | 第2節 知的財産と個人情報<br>① 知的財産<br>② 情報の利用と公開<br>③ 個人情報の保護と管理<br>④ サイバー犯罪とその対策<br><br>第3節 問題解決<br>① 問題解決の手順と発見<br>② 問題の明確化と解決案<br>③ 問題解決の実施と評価 | ・知的財産権について理解する。<br>・サイバー犯罪とは何か、どのように対策すればよいかを理解する。<br>・問題解決の実施と評価の方法について理解する。                           | ○     |   |   | ・知的財産権の概要について説明することができる。  |                    |
|   |  |   |       | ○ |   | ・認証の種類や方法について理解し、適切なパスワードを作成することができる。   |                    |
| 6 | 第4章 アルゴリズムとプログラミング<br>第1節 アルゴリズムとプログラミング<br>① アルゴリズムとその表記<br>② プログラミング言語   | ・アルゴリズムを用いてプログラムを表現する方法を理解する。<br>・プログラミングの手順とプログラミング言語の種類とその特徴について理解する。                                 | ○     |   |   | ・プログラミングの手順(設計→コーディング→テスト)を理解している。  |                    |
|   |  |   |       | ○ |   | ・簡単なアルゴリズムを、フローチャートで表現できる。<br>・問題解決のためのアルゴリズムを考える学習に、主体的に取り組んでいる                                    |                    |
| 7 | 第3節 プログラミングの実践<br>① プログラミングの基礎<br>② 関数を使用したプログラム<br>③ 探索と整列のプログラム  | ・変数を使用したプログラムを作成する。<br>・関数を使用したプログラムを作成する。<br>・多くのデータから目的のデータを探し出し、数値を並べ替えたりするプログラムを作成する。               | ○     |   |   | ・VBAの実行環境を設定し、簡単なプログラムを作成して実行することができる。  |                    |
|   |  |   |       | ○ |   | ・関数を活用したプログラムを設計し、わかりやすく効率的なプログラムを作成できる。<br>・問題解決のためのアルゴリズムを考え、粘り強く試行錯誤しながらプログラムを作成することができる。        |                    |

| 月  | 学習項目   | 学習内容(ねらい)   | 評価の観点 |   |   | 評価規準   | 評価方法               |
|----|--|---|-------|---|---|--|--------------------|
|    |  |   | a     | b | c |  |                    |
| 8  | 第2章 コミュニケーションと情報デザイン<br>第1節 メディアとコミュニケーション<br>① メディアの機能<br>② メディアの特性<br>③ コミュニケーションの形態<br>④ インターネット上のコミュニケーション                       | ・メディアの機能や分類について理解し、メディアの発達について知る。<br>・コミュニケーションの形態には違いがあることを理解する。<br>・インターネットを活用したコミュニケーションの特徴について理解する。 | ○     |   |   | ・メディアの機能について説明することができる。  | 定期考査<br>授業態度<br>課題 |
|    |  |   |       | ○ |   | ・コミュニケーションの方法を発信者と受信者の人数、位置関係、同期性によって分類することができる。<br>・自らのメディア活用について振り返り、より効果的な表現や情報伝達ができるように改善しようとしている。                                   |                    |
| 9  | 第2節 情報デザイン<br>① 社会の中の情報デザイン<br>② 情報デザインの工夫<br>第3節 情報デザインの実践<br>① 文書の作成<br>② プレゼンテーションの工夫<br>③ Web ページ                                | ・社会の中で利用されている情報デザインについて理解する。<br>・情報を分類したり、わかりやすく表現したりする方法について理解する。<br>・報告書やレポート、論文を作成するための手順について理解する。   | ○     |   |   | ・情報バリアフリー、ユニバーサルデザインの意味と目的について説明することができる。<br>・必要に応じて、情報を抽象化、可視化、構造化して表現することができる。   |                    |
|    |  |   |       | ○ |   | ・わかりやすい報告書やレポートを作成するため、文書の構成やレイアウトについて自ら進んで工夫し、評価に基づいて改善しようとしている。  |                    |
| 10 | 第3章 情報のデジタル化とコンピュータ<br>第1節 情報のデジタル表現<br>① デジタルと情報量<br>② 数値と文字の表現<br>③ 音の表現<br>④ 静止画と動画の表現<br>⑤ データ量とデータの圧縮                           | ・アナログとデジタルの違い、2進数と情報量の関係について理解する。<br>・音声をデジタルで表現する方法について理解する。<br>・静止画や動画をデジタルで表現する方法について理解する。           | ○     |   |   | ・アナログとデジタルの概念とその違いを理解している。   |                    |
|    |  |   |       | ○ |   | ・音声の情報を目的に応じて適切にデジタルで表現できる。<br>・数値・文字・音声・画像などのデジタル化の仕組みに関心を示し、これらのデジタル化された情報を主体的かつ適切に取り扱おうとしている。   |                    |
| 11 | 第2節 コンピュータの仕組みと動作<br>① ハードウェアとソフトウェア<br>② 数値の計算<br>③ 演算の仕組み  | ・コンピュータの構成や動作、情報機器の接続、ソフトウェアの種類について理解する。<br>・コンピュータでの数値の計算方法について理解する。<br>・コンピュータの演算の仕組みを理解する。           | ○     |   |   | ・コンピュータの構成や計算の仕組みについて説明することができる。   |                    |
|    |  |   |       | ○ |   | ・10進数の小数を浮動小数点数で表すことができるようになる。<br>・加算回路など、コンピュータによる演算や数値計算の仕組みについて関心を示している。  |                    |
| 12 | 第5章 情報通信ネットワークとセキュリティ<br>第1節 情報通信ネットワーク<br>① ネットワークの構成<br>② 情報通信の取り決め<br>③ インターネットの仕組み<br>④ web ページとメールの仕組み<br>⑤ 転送速度と誤り検出           | ・情報通信ネットワークの構成について理解する。<br>・ネットワークを効率的に利用するための取り決めについて理解する。<br>・ネットワークを通じてデータを効率よく転送する工夫について理解する。       | ○     |   |   | ・通信方式の種類やその違いについて説明することができる。<br>・インターネットにおける情報伝達の仕組みについて、教科書の図で説明することができる。   |                    |
|    |  |   |       | ○ |   | ・インターネットの仕組みやサービスに興味・関心をもち、転送速度の向上や誤り検出の方法などについて、個人あるいはグループで検討しようとしている。  |                    |
| 1  | 第2節 情報セキュリティ<br>① 情報セキュリティの脅威と対策<br>② 安全のための情報技術<br>第3節 情報システム<br>① 情報の中の情報システム<br>② 情報システムの活用<br>③ データベース                           | ・情報セキュリティの脅威に対するさまざまな安全対策について理解する。<br>・情報を安全に取り扱うための技術について理解する。<br>・身のまわりの情報システムについて理解する。               | ○     |   |   | ・おもな情報セキュリティへの脅威(リスク)と、その対策について理解している。   | 定期考査<br>授業態度<br>課題 |
|    |  |   |       | ○ |   | ・デジタル署名や電子認証などの情報技術は、どのような問題を解決するための技術か、具体的に事例をあげて説明することができる。<br>・これからの社会における情報システムの活用について、関心を示して調べてみようとしている。                            |                    |
| 2  | 第6章 データの活用とシミュレーション<br>第1節 データの活用<br>① データの収集と整理<br>② データの分析と表計算<br>③ データの可視化<br>④ データ分析の手法  | ・データを収集したり整理したりする方法について理解する。<br>・データを適切なグラフや図に表現する。<br>・データ分析の手法について理解する。                               | ○     |   |   | ・オープンデータの利用や標本調査の方法について理解している。   |                    |
|    |  |   |       | ○ |   | ・問題解決の目的に応じてグラフの種類を選択し、データを適切に可視化することができる。<br>・問題解決のためのデータ分析を、試行錯誤しながら粘り強く行うことができる。  |                    |
| 3  | 第2節 モデル化とシミュレーション<br>① モデルとモデル化<br>② シミュレーション<br>第3節 シミュレーションの実際<br>① 確定的モデルとシミュレーション<br>② 確率的モデルとシミュレーション<br>③ モデル化とシミュレーションによる問題解決 | ・モデル化の意味、分類、モデル化の手順について理解する。<br>・シミュレーションの手順と方法について理解する。<br>・確率的モデルのシミュレーションを行う。                        | ○     |   |   | ・モデル化およびシミュレーションの意味について説明することができる。   |                    |
|    |  |   |       | ○ |   | ・コンピュータを活用して、現実の問題解決のために行うシミュレーションの活用事例をあげることができる。<br>・モンテカルロ法による円周率の算出について、表計算ソフトウェアを用いたシミュレーションだけでなく、プログラミングでシミュレーションする方法にも取り組もうとしている。 |                    |

令和8年度 年間学習指導計画案

|       |               |     |      |           |                |
|-------|---------------|-----|------|-----------|----------------|
| 科目    | スポーツ理論        | 単位数 | 1単位  | 学年・学科・コース | 2年・普通科・スポーツコース |
| 使用教科書 | スポーツ概論(大修館書店) |     | 副教材等 |           | なし             |

1. 学習の到達目標と評価の観点

|         |  |
|---------|--|
| 学習の到達目標 | 生涯を通してスポーツの推進及び発展に関わることができる資質・能力の育成を図るため、スポーツを実践するだけにとどまらず、「みる」、「支える」、「知る」という視点も含めて、広く、文化、経済、教育などの側面から捉え、スポーツ科学の研究成果を踏まえた教養を身に付ける。 |
|---------|--|

| 評価の観点   |   |  |
|---|---|--|
| a. 知識・技能  | b. 思考・判断・表現   | c. 主体的に学習に取り組む態度                                 |
| 運動やスポーツの技能の上達過程にはいくつかの段階があり、段階に応じた練習方法や運動観察の方法、課題の設定方法について必要な知識・技能を身に付けようとしている。 | スポーツの推進及び発展に必要な自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養おうとしている。 | 生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与するための学習に主体的に取り組む態度を養おうとしている。 |

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

| 月                | 学習項目  | 学習内容(ねらい)   | 評価の観点 |   |   | 評価規準  | 評価方法                 |
|------------------|---|---|-------|---|---|---|----------------------|
|                  |   |   | a     | b | c |   |                      |
| 4<br>5<br>6<br>7 | 第2章<br>スポーツの競技力を向上させよう<br>1 競技力向上に必要な基礎知識を知ろう | ・競技力向上に必要な基礎知識を理解する。  | ○     |   |   | ・競技力向上に必要な基礎知識を理解したことを言ったり書いたりしている。<br>・競技力向上に必要な基礎知識について、多角的な視点から、課題の解決に向けて思考し判断するとともに、自らの考えを論理的に伝えることができる。<br>・スポーツの競技力向上について、学習に主体的に取り組もうとしている。    | 定期考査<br>授業態度<br>発問評価 |
|                  |   |   |       | ○ |   |   |                      |
|                  |   |   |       |   | ○ |   |                      |
| 8<br>9<br>10     | 2 競技力を向上させる練習方法・練習計画を知ろう                      | ・競技力を向上させる練習方法・練習計画について理解する。                                  | ○     |   |   | ・競技力を向上させる練習方法について、理解したことを言ったり書いたりしている。<br>・競技力を向上させる練習計画を思考し判断するとともに、自らの考えを計画を立てることができる。<br>・競技力を向上させることについて主体的に取り組もうとしている。                          | 定期考査<br>授業態度<br>発問評価 |
|                  |   |   |       | ○ |   |   |                      |
|                  |   |   |       |   | ○ |   |                      |
| 11<br>12         | 3 競技力向上に向けた指導体制や情報戦略について知ろう                   | ・競技力向上に向けた指導体制について理解する。<br>・競技力向上に向けた情報戦略について理解する。            | ○     |   |   | ・競技力を向上に向けた指導体制について、理解したことを言ったり書いたりしている。<br>・競技力を向上に向けた情報戦略における課題の解決に向けて思考し判断するとともに、解決に向けた自らの考えを論理的に伝えることができる。<br>・競技力を向上に向けた指導体制について、主体的に取り組もうとしている。 | 定期考査<br>授業態度<br>発問評価 |
|                  |   |   |       | ○ |   |   |                      |
|                  |   |   |       |   | ○ |   |                      |
| 1<br>2<br>3      | 第3章<br>1 体力向上の科学的基礎について知ろう                    | ・練習やトレーニングによる身体の変化について理解する。<br>・目的に応じたトレーニングプログラムの作成について理解する。 | ○     |   |   | ・練習やトレーニングによる身体の変化について、理解したことを言ったり書いたりしている。<br>・目的に応じたトレーニングプログラムの作成において自らの考えを論理的に伝えることができる。<br>・体力向上の科学的基礎について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。           | 定期考査<br>授業態度<br>発問評価 |
|                  |   |   |       | ○ |   |   |                      |
|                  |   |   |       |   | ○ |   |                      |

令和8年度 年間学習指導計画案

|       |       |     |     |           |                     |
|-------|-------|-----|-----|-----------|---------------------|
| 科目    | スポーツA | 単位数 | 1単位 | 学年・学科・コース | 2年・普通科・スポーツコース      |
| 使用教科書 | なし    |     |     | 副教材等      | Active Sports (大修館) |

1. 学習の到達目標と評価の観点

|         |  |
|---------|--|
| 学習の到達目標 | 生涯にわたって運動やスポーツを継続するためには、技術の特徴に応じた学習の仕方があることや技能を高めるために、何をどのように取り組めばよいのか、健康・安全をどのように確保するのかなどの運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解する |
|---------|--|

| 評価の観点   |                                      |                                     |
|---|--------------------------------------|-------------------------------------|
| a. 知識・技能  | b. 思考・判断・表現                          | c. 主体的に学習に取り組む態度                    |
| 生涯にわたってスポーツを継続するためには、ライフスタイルに応じたスポーツとの多様な関わり方を見つける。 | スポーツを推進及び発展させる視点から課題を発見し、他者に伝える力を養う。 | 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について主体的に取り組む態度を養う。 |

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

| 月            | 学習項目                           | 学習内容(ねらい)   | 評価の観点 |   |   | 評価規準   | 評価方法         |
|--------------|--------------------------------|---|-------|---|---|--|--------------|
|              |                                |   | a     | b | c |  |              |
| 4<br>5       | 基礎体力<br>(体力総合診断)               | ・専門種目の特性に応じた科学的なデータを得ることで今後のトレーニングの基礎資料として活用できることを理解する。 | ○     |   |   | ・測定する部位や器具について理解することができる。                            | 定期考査<br>授業態度 |
|              |                                |   |       | ○ |   | ・自分の体に関心を持つことができる。                                   |              |
|              |                                |   |       |   | ○ | ・基礎体力診断に自主的に取り組むことができる。                              |              |
| 6<br>7       | トレーニングの理論と実践<br>(体力総合診断の結果と分析) | ・トレーニングの理論を理解し実践の仕方を理解する。                               | ○     |   |   | ・トレーニングの種類と役割を理解できる。                                 |              |
|              |                                |   |       | ○ |   | ・トレーニングをプログラムすることができる。                               |              |
|              |                                |   |       |   | ○ | ・トレーニングの学習に主体的に取り組もうとしている。                           |              |
| 8<br>9<br>10 | 安全の確保と応急手当<br>(マリンスポーツ実習)      | ・救命救急法の講習やプール実習で習得した知識や技能を実習等に役立てる。                     | ○     |   |   | ・実習の手順や方法が理解できる。                                     |              |
|              |                                |   |       | ○ |   | ・習得した知識や技能を事故や災害で生じる傷害や疾病に関連付けて、悪化防止のための適切な方法に応用できる。 |              |
|              |                                |   |       |   | ○ | ・安全の確保と応急手当に自主的に取り組むことができる                           |              |
| 11<br>12     | スポーツ外傷<br>スポーツドーピングの防止         | ・外傷の悪化を防いだり、痛みを緩和したりすることを理解する。                          | ○     |   |   | ・外傷の種類を理解することができる。                                   |              |
|              |                                |   |       | ○ |   | ・外傷の悪化を防ぐ方法を適切に判断し活用することができる。                        |              |
|              |                                |   |       |   | ○ | ・スポーツ外傷、スポーツドーピングの防止について主体的に取り組もうとしている。              |              |
| 1<br>2<br>3  | スポーツ栄養学                        | ・スポーツの多様な理論と実践に関する課題研究                                  | ○     |   |   | ・スポーツにおける栄養の役割を理解することができる。                           |              |
|              |                                |   |       | ○ |   | ・栄養とコンディション維持関連させることができる。                            |              |
|              |                                |   |       |   | ○ | ・課題研究に自主的に取り組むことができる                                 |              |

令和8年度 年間学習指導計画案

|       |       |     |      |           |                |
|-------|-------|-----|------|-----------|----------------|
| 科目    | スポーツB | 単位数 | 1単位  | 学年・学科・コース | 2年・普通科・スポーツコース |
| 使用教科書 | なし    |     | 副教材等 |           | なし             |

1. 学習の到達目標と評価の観点

|         |  |
|---------|--|
| 学習の到達目標 | スポーツの多様な推進及び発展に寄与するためには、対象者に応じたスポーツの指導法や参加者の経験や体力に応じた健康・安全の確保の仕方を理解できるようにする。 |
|---------|--|

評価の観点

| a. 知識・技能   | b. 思考・判断・表現   | c. 主体的に学習に取り組む態度                             |
|--|---|--|
| スポーツの多様な意義やスポーツの推進及び発展の仕方について理解するとともに、スポーツの推進及び発展に必要な技能を身につける。 | スポーツの推進及び発展に必要な自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 | 生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与するための課題研究に主体的に取り組む態度を養う。 |

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

| 月            | 学習項目                                  | 学習内容(ねらい)  | 評価の観点 |   |   | 評価規準                            | 評価方法 |
|--------------|---------------------------------------|--|-------|---|---|---------------------------------|------|
|              |                                       |  | a     | b | c |                                 |      |
| 4<br>5       | 五島長崎国際トライアスロン準備・運営ボランティア              | ・各ライフステージやライフスタイルによって技術の習得のみならず、健康の維持、仲間づくり、ストレスの発散など多様であることを理解する。 | ○     |   |   | ・大会運営について仕組みを理解することができる。        | 授業態度 |
|              |                                       |  |       | ○ |   | ・スポーツの推進方法を適切に理解し他者に伝えることができる。  |      |
|              |                                       |  |       |   | ○ | ・大会準備、運営についての学習に主体的に取り組もうとしている。 |      |
| 6<br>7       | ニュースポーツ実習Ⅰ<br>(インディアカ)                | ・参加者の目的や年齢、経験、障害の有無等に応じた基本的な指導方法を理解する。                             | ○     |   |   | ・競技方法を理解できる。                    |      |
|              |                                       |  |       | ○ |   | ・ルールや用具の工夫する点について考えることができる。     |      |
|              |                                       |  |       |   | ○ | ・学習に主体的に取り組もうとしている。             |      |
| 8<br>9<br>10 | ニュースポーツ実習Ⅱ<br>(ミニバレー)                 | ・スポーツの参加目的は、発達段階やライフステージによって多様であることを理解する。                          | ○     |   |   | ・競技方法を理解できる。                    |      |
|              |                                       |  |       | ○ |   | ・ルールや用具の工夫する点について考えることができる。     |      |
|              |                                       |  |       |   | ○ | ・学習に主体的に取り組もうとしている。             |      |
| 11<br>12     | ニュースポーツ実習Ⅱ<br>(グランドゴルフ)               | ・多世代や多目的に対応したスポーツへの参画がスポーツ推進及び発展するために有効な方法の1つであることを理解する。           | ○     |   |   | ・競技方法を理解できる。                    |      |
|              |                                       |  |       | ○ |   | ・ルールや用具の工夫する点について考えることができる。     |      |
|              |                                       |  |       |   | ○ | ・学習に主体的に取り組もうとしている。             |      |
| 1<br>2<br>3  | ニュースポーツ実習Ⅰ<br>(フリーテニス)<br>(フライングディスク) | ・スポーツ活動を継続する際の効果的な運営の仕方について理解する。                                   | ○     |   |   | ・競技方法を理解できる。                    |      |
|              |                                       |  |       | ○ |   | ・ルールや用具の工夫する点について考えることができる。     |      |
|              |                                       |  |       |   | ○ | ・学習に主体的に取り組もうとしている。             |      |

令和8年度 年間学習指導計画案

|       |       |     |     |           |                |
|-------|-------|-----|-----|-----------|----------------|
| 科目    | スポーツC | 単位数 | 3単位 | 学年・学科・コース | 2年・普通科・スポーツコース |
| 使用教科書 | なし    |     |     | 副教材等      | なし             |

1. 学習の到達目標と評価の観点

|         |   |
|---------|---|
| 学習の到達目標 | 体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を育成する。<br>・採点競技及び測定競技の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに技能を身につける。<br>・武道及び諸外国の対人的競技等の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに技能を身につける。 |
|---------|---|

| 評価の観点  |  |  |
|--|--|--|
| a. 知識・技能   | b. 思考・判断・表現  | c. 主体的に学習に取り組む態度   |
| (陸上競技) 各種目特有の技能を身につけ、仲間と継続的に活動するための調整の仕方を理解する。<br>(武道) 相手の動きの変化に応じた基本動作から、得意技を用いて技能を発揮するとともに攻防を理解する。 | (陸上競技) (武道) 生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与することができるよう、運動実践につながる態度を養う。 | (陸上競技) 勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする態度を養う。<br>(武道) 相手を尊重し礼法などの伝統的な行動の仕方を大切にすることを養う。 |

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

| 月  | 学習項目  | 学習内容(ねらい)  | 評価の観点 |   |   | 評価規準  | 評価方法 |   |
|----|---|--|-------|---|---|---|------|---|
|    |   |  | a     | b | c |   |      |   |
| 4  | (陸上競技)<br>・スプリントドリル<br>・SAQトレーニング<br>・トレーニング理論<br>(武道)<br>・武道としての礼法、作法<br>・ランニングトレーニング<br>・技の研究 | ・(陸上競技) 採点競技への多様な関わり方を理解する。<br>・(武道) 武道への多様な関わり方を理解する。 | ○     |   |   | ・(陸上競技) (武道)<br>他者と学び合う場面で、基本的な技の見本や改善のポイントを身体及び言葉などで表現できる。<br>・(陸上競技) (武道)<br>発見した動きの改善点や効果的な改善策について、活動場面で判断して仲間に伝えることができる。<br>・(陸上競技) (武道)<br>公正、協力、責任などのスポーツの持続可能性に寄与する学習に意欲的に取り組むことができる。                                      | 授業態度 |   |
| 5  |   |  |       | ○ |   |   |      |   |
| 6  |   |  |       |   | ○ |   |      |   |
| 7  |   |  |       | ○ |   |   |      |   |
| 8  | (陸上競技)<br>・レジスタンストレーニング<br>・軽快走<br>・ウエイトトレーニング<br>(武道)<br>・技の練習<br>・ウエイトトレーニング<br>・得意技の開発       | ・(陸上競技) (武道)<br>自己や仲間の課題を発見し判断する。                      | ○     |   |   | ・(陸上競技) (武道)<br>体力や技能の程度、性別や目的の違いを超えてスポーツを楽しむために調整することができる。<br>・(陸上競技) (武道)<br>映像や記録など客観的なデータから効果的な改善点の妥当性やより効果的な改善策について分析したことの根拠を示し伝えることができる。<br>・(陸上競技) (武道)<br>自他の状況及び環境の変化に応じた目的や活動の仕方に意欲的に取り組むことができる。                        |      |   |
| 9  |   |  |       |   | ○ |   |      |   |
| 10 |   |  |       |   |   |   |      | ○ |
| 11 |   |  |       |   |   |   |      | ○ |
| 12 | (陸上競技)<br>・持久走<br>・ウエイトトレーニング<br>(武道)<br>・技の練習<br>・攻防の技術<br>・ウエイトトレーニング                         | ・(陸上競技) (武道)<br>公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高めることができる。      | ○     |   |   | ・(陸上競技) (武道)<br>発表会や競技会などの目的に応じた企画。<br>・(陸上競技) (武道) 練習会や競技会を行う場面で自己や仲間の活動を振り返りよりよいルールやマナーについて提案することができる。<br>・(陸上競技) 一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び練習の仕方やルールの修正などを大切にすることができる。<br>・(武道) 相手を尊重し礼法などの伝統的な行動の仕方を大切にしようとする、禁止事項などの試合のルールを遵守しようとする。 |      |   |
| 1  |   |  |       |   | ○ |   |      |   |
| 2  |   |  |       |   |   |   |      | ○ |
| 3  |   |  |       |   | ○ |   |      |   |